

## 3 大村地域まちづくり構想

### 3-1 地域の現状

#### ■概況

本地域は、焼津市の北西部に位置し、面積は約 392ha で市域の約 6%を占めています。昭和 29 年に大覚寺地区、昭和 32 年に越後島地区が当時の周辺の市町村から焼津市に編入され、今の地域の一部になっています。

地域内には焼津駅、東名高速道路焼津 I C、国道 150 号があり、交通の利便性の良い地域として商業、工業、住宅それぞれの土地利用が進んでいます。

大村地域 位置図



#### ■人口の推移

平成 27 年における本地域の人口は 15,455 人、世帯数は 6,365 世帯となっています。人口は平成 26 年まで増加傾向を維持していましたが、平成 27 年に減少に転じています。また、世帯数は増加傾向が続いています。

年齢 3 区分別人口割合は、15 歳未満及び 15 歳～65 歳未満が近年減少傾向に、65 歳以上が経年的に増加傾向にあり、少子高齢化の傾向が強まっています。平成 27 年における 65 歳以上人口の割合は 24.0%で、高齢化率は 2 番目に低い地域となっています。

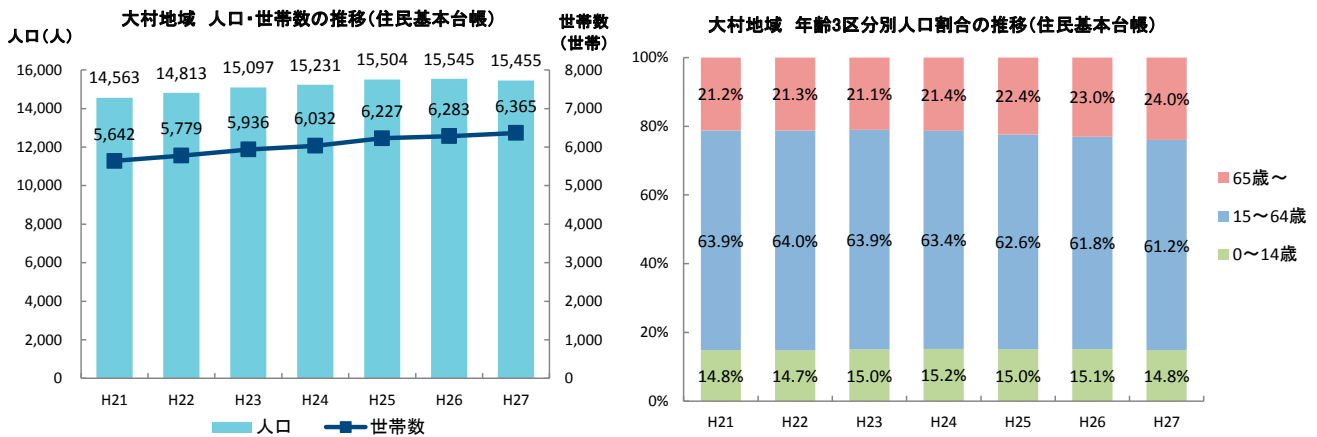


図. 大村地域における人口・世帯数及び年齢 3 区分別人口割合の推移  
(住民基本台帳より：H24 までは日本人のみ、H25 以降は外国人を含む)

## 3-2 地域の将来像

### 大村地域の将来像

- 多彩な地域資源を活かした、多くの人交流するまち
- 自然環境と共生した、健やかに過ごせるまち
- 自然災害に備え、地域の絆を強めるまち

## 3-3 地域のまちづくりの課題

### ◎地域資源を有効活用したにぎわいづくり

- ・焼津駅や焼津ICなどを有する高い交通利便性を活かし、地域住民や観光客が交流する活力あるまちづくりを進めるとともに、安心して買い物ができる空間や、良好な街並み景観を創出する必要があります。
- ・焼津IC周辺においては、焼津さかなセンターなどの観光資源をまちづくりに有効に活用するとともに、市内外の連携を促進するための道路交通機能の強化と、健全な市街地環境を計画的に形成する必要があります。
- ・高齢者の増加に対応するため、公共交通などによる日常生活を支える移動手段の充実を図る必要があります。また子どもや高齢者、観光客等、誰もが安全・安心に通行できる歩行者空間を創出する必要があります。

### ◎緑豊かな自然資源の活用

- ・瀬戸川や朝比奈川などの地域を流れる河川と水辺、周辺の緑地を守るとともに、地域住民の憩いの場、交流の場、健康づくりの場として効果的に活用する必要があります。
- ・土地区画整理事業により計画的に整備された良好な街並み環境の保全と活用を図ることが必要です。

### ◎地域の活力向上と、大雨などの自然災害への備えの充実

- ・地域活動の中心地である大村公民館などを有効活用したまちづくりを進める必要があります。
- ・地域の一部では、大雨時に道路冠水等が発生しているため、瀬戸川や朝比奈川などの地域を流れる河川とその流域について、総合的な治水対策を進める必要があります。
- ・過去の自然災害の発生状況や教訓をもとに、自然災害に対する危険性や正しい知識を習得するなど、地域住民の防災意識の向上と防災活動の充実を図る必要があります。

## 3-4 地域のまちづくり方針

### ①焼津駅や焼津ICなどを活かした、多様な交流を創出するまちづくり

- ・都市拠点である焼津駅周辺においては、公共交通の結節点に位置するメリットを活かし、商業機能・居住機能など、主要な都市機能の集約を図り、生活交流・観光交流を促進していきます。また、中心商業・業務地として位置付けされている駅北二丁目・三丁目地区においては、地区計画の制度を活用し、健全な商業地としての育成と良好な環境を維持し美しいまちづくりに努めます。
- ・流通業務地や市街地環境整備検討地（P19 参照）である東名高速道路焼津インターチェンジ周辺においては、交通便利性を活かし、焼津さかなセンターなど大規模集客施設を有効活用した、積極的な魅力づくりと情報発信により、観光交流の推進を図ります。また、安心して子どもを産み育てられ、高齢者が地域において安全・安心・快適な生活を営むことができるよう、良好な住環境づくりに努めます。
- ・隣接都市及び市内の円滑な移動を可能にするため、（都）焼津広幡線を計画的に整備するとともに、子どもから高齢者まで誰もが、安全・安心・快適に通行できる空間づくりに努めます。また、地域住民の日常の足の確保と利便性向上のため、利用需要に応じた公共交通ネットワークを検討します。



焼津さかなセンター

### ②瀬戸川など地域の自然資源を活かした、緑につつまれる景観まちづくり

- ・瀬戸川、朝比奈川などの地域ならではの自然資源を守り、活かすための地域独自の景観への取組を通して、豊かな水と緑を市民が身近に感じることができるまちづくりを進めます。
- ・大覚寺公園や八楠公園などでは、緑や花で人々にやすらぎやくつろぎなどを与えるとともに、健康づくりやスポーツ・レクリエーションの場を創出します。
- ・環境の保全と衛生的で快適な生活基盤の充実を図るため、ボランティアなどの地域住民が主体となった環境美化活動を推進します。



瀬戸川

### ③大村公民館などを活用した地域住民主体の活力あるまちづくりと、 総合的な治水対策をはじめとする防災・減災まちづくり

- ・大村公民館、大覚寺公園、総合福祉会館（ウェルシップやいづ）など、地域活動の中心地にある既存施設を有効活用しながら、子どもから高齢者まで誰もが、集い、憩うことのできる場づくりを進めるとともに、地域特性を活かした、地域住民主体の活力あるまちづくりを進めます。また、子どもから高齢者など、地域で守る体制づくりを進め、犯罪や事故のない市民が安全で安心して暮らすことができるまちづくりを進めます。



大村公民館

- ・台風や集中豪雨などに起因する水害の防止・軽減を図るため、瀬戸川や朝比奈川などでは、河川の特徴を踏まえた整備と維持管理を進めるとともに、総合的な治水対策を推進します。
- ・地域の子どもから高齢者まで誰もが、普及・啓発活動や防災教育等を通じて、防災意識を高揚させるとともに、災害ボランティア活動への参画を促進し、地域における防災活動を積極的に支援します。



